

経営者交代による業績変化の業種間比較

- トップ・マネジメントが業績にもたらす影響は業種ごとに異なるのか -

山崎専門ゼミナール

経済学科 3年 瀧澤充彦

経営学科 3年 藤田高広

経営学科 3年 蓮見航太

金融学科 3年 佐藤俊太

本論文の研究意義は日本企業における経営者の交代が業績に与える影響を、業種ごとに比較検討することで、その業種に属する企業が、経営者交代が正しい選択になるのかを判断する材料を企業に提供することである。このような研究意義から、本論文では「日本企業における経営者交代が業績に及ぼす影響は業種によって異なる」ということを仮説とし、その検証を行った。

具体的には、企業の「売上高」、「純資産」、「従業員数」、「ROA」の4つのデータをもとに、各企業の経営者交代前後の業績の伸び指数を算出し、それを業種ごとに集計して業種間の比較を行った。

分析の結果、調査できた16業種全体に関しては、4つの業績指標全てにおいて経営者交代後の業績は改善傾向がみられた。ここからさらに業種ごとの業績を比較するために、経営者交代によって各業績指標に改善がみられた企業の割合が業種全体の50%を上回った時、その業種は経営者交代が業績改善にプラスの影響を与えると想定して研究を進めた。しかし、ここではあまり大きな違いがなく、全体として業績は改善傾向がみられた。

そこで、次に業種ごとに算出した業績指数の数値が高い順に、16業種を上から並び替え、1位には16点、2位には15年、3位には14点……、16位には1点を与えるという手法で点数化し、最も業績が改善した業種が何であるかを調査し比較した。この結果、まず特筆すべきは「サービス業」であった。サービス業は全4項目中3項目で5年間1位の伸びを維持し続け、また、4項目の合計においてもトップであった。

一方、全ての項目において数値が低かったのが陸運業であった。業績指数ごとに見ると、「売上高伸び指数」では1位のサービス業の得点は最下位の銀行業の16倍と、業種間でかなり差があるという結果になった。

以上の結果から、本研究の仮説である「日本企業における経営者交代が業績に及ぼす影響は業種によって異なる」は、ある程度支持されたと考えられる。